

令和2年度 学校評価

重点目標 ○指導・支援をつなげる。(指導の継続性の確保) ○主体的な学びを促す授業づくりを推進する。(社会に開かれた教育課程) ① 健康で安全に学習でき、安心して通える学校 ② 一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校 ③ 教職員の能力や専門性を発揮できる学校 ④ 保護者、関係機関等との連携を基盤とした、幼児児童生徒支援を進める学校			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
幼・小学部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 支援機器や支援具を効果的に活用することで、幼児児童が主体的に活動し、伝える力、関わる力を育む授業を展開する。 年間指導計画を活用し、教科横断的な視点からつながりのある学習を計画し、指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 一貫した指導・支援が行えるように、部会や学年会、スタディ会で幼児児童の情報を共有する。 「学校の新しい生活様式」の中で、幼児児童同士が関わる機会を工夫する。 生活に即した活動を十分に取り入れ、段階的な指導を計画する。 ヒヤリハットの検証を確実にを行い、安心・安全な学習環境や支援の提供に努める。
中学部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画と個別の指導計画を活用し、学習面・生活面において指導の継続を図ると共に、保護者、関係機関等と連携して支援を行う。 生徒一人一人が主体的に活動して目標を達成できる授業実践を、各学年・各スタディで協働して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 高等部卒業後を見据えた身に付けたい力を育成する具体的目標を設定し、情報を共有する。 保護者、関係機関等との連絡を密に行い、支援の充実を図る。 学習面と生活面において、できる・分かるという実感や自己肯定感をもてるように、意思伝達や意思決定をする場面を設定する。 各学年会やスタディ会において、生徒一人一人の健康状態や安全・人権などに関する理解を深め、協働できる職員体制をつくる。
高等部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 中学部や中学校での教育の成果を引き継ぎ、卒業後に向けた実践的な学習を積み重ねることにより、生徒一人一人の主体性を育む。 自己の障害を正しく認識し、自己理解を深める指導・支援を行う。 人権に配慮した教育に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな学習場面で自己選択・自己決定を繰り返して主体性を育む。 HR、休憩時間等を利用し、生徒の相談や悩みに適宜応じる。 高等部3年間を見通し、校内外の実習や校外学習などの実践的な活動と通常の授業や調べ学習を関連付けることにより、卒業後を見据えた取組を推進する。 合理的配慮の考えに基づき、ICT機器を始め、さまざまな支援機器や支援具の活用を進める。 生徒呼称、生徒への言葉掛け、生活年齢に応じた授業内容の工夫等に配慮する。
訪問教育	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> ゆったりとした心と体で過ごせるようにする。 訪問生と通学生、また、訪問生同士の情報を交換し合う機会を設定し、つながりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 体調に配慮しながら、五感を刺激するような学習内容を工夫する。 個人情報に配慮しながら、写真や映像、訪問通信などを利用して、相互に意識できるようにする。
総務部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> ファイリング、廃棄、保存等の文書管理の統一化・定着化を図る。 保護者に本校の教育活動に対するアンケートを実施し、感想、意見等を集約する。 	<ul style="list-style-type: none"> 書庫や文書管理ルールの整理を行い、職員間で共有を図り、業務改善につなげる。 各部各校務分掌から、アンケート内容を取りまとめ、多角的に保護者の意見を集約し、よりよい教育活動につなげる。
教務部	③教職員の能力や専門性を発揮できる学校	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に関する情報を共有し、幼小中高のつながりのある教育課程、支援体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科会において新学習指導要領への各部の対応や指導・支援の方向性について情報交換し、つながりのある教育課程編成を進める。 各部・各教科で作成した教材教具やデータの蓄積体制を整え、指導・支援のつながりを深めたり、用具を共有して合理化を図ったりする。 オンラインによる学習支援を始め、実態に応じた活用方法を検討する。
研修部	③教職員の能力や専門性を発揮できる学校	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校の教員として必要な知識、技能の習得、安全に関する訓練等の研修を計画する。 確かな学びを育てる授業づくりを行うための研修・研究等を発展させ、授業力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 各関係機関と連携をとり、全校研修や各研修会の内容の充実を図り、肢体不自由教育の専門性の向上を促す。 長期休業中における自主研修会の内容の精選を図り、教職員相互が研修できる環境を整える。 各部で取り組んでいる研究を学校全体で共有し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を行っていく。
図書部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい配架整備と図書室利用の啓発を図る。 さまざまな展示や企画に取り組み、幼児児童生徒の本への興味関心を高める。 バーコード化をしたことによる 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒が選びやすい、返ししやすい配架になるように分類及びポップの工夫をする。 毎月テーマに沿った展示を行う。また他の分掌との連携企画展示を行い、人権、進路、食育などへの意識を高める。 国際子ども図書館からの借入れやそれに合わせた企画展示をし、幼児児童生徒一人一人の興味・関心を高める。

		利点を生かしてより使いやすい図書室にする。	・貸出返却に伴う不具合への対応、蔵書データの管理、貸出履歴の把握などを行い、不明本を減らす。
教育情報部	④保護者、関係機関等との連携を基盤とした、幼児児童生徒支援を進める学校	・学校ホームページによる情報発信をし、学校理解の推進に役立てる。 ・マチコミの機能を活用し、保護者との連携がよりスムーズに行えるように役立てる。	・アクセスビリティに気を付け、誰でもどんな媒体でも情報が得られるようにページの作成をする。 ・正確な情報が保護者に発信できるように、管理責任者、情報発信者を明確にする。
生徒指導部	①健康で安全に学習でき、安心して通える学校	・災害に対する意識をより高めるために、最善な対策案を提示し、可能な形で訓練を実施していく。 ・幼児児童生徒の現況の正確な把握、職員間での確実な情報共有に努め、学校としての組織的な対応を図る。	・現状に即した防災訓練として、水災害などこれまで具体的に想定していない災害に対する訓練のあり方について具体的な内容を検討、周知し、実践していく。現状の訓練において課題の確認や対策を図り、対応マニュアルの内容で改善できたところを更新していく。 ・心のアンケート及びいじめ・不登校等対策委員会を定期的に実施する。幼児児童生徒の些細な兆候も見逃さないよう日頃からの観察に重点を置き、それぞれの現状把握、職員間での情報共有に努めるとともに、学年や部、学校全体が一体となって組織的な支援を展開する。
進路指導部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	・キャリア教育の視点から障害や年齢に応じた生活や、進路に関する支援を本人の意思を大切にしている。 ・学校生活から卒業後の生活への移行をスムーズにできるように支援する。	・日常生活から意思決定支援を保護者、関係機関と連携しながら行い、自ら進路決定できるような心の成長を促す。 ・具体的な支援について関係機関との連携を充実し、学校生活から卒業後の生活へのイメージがもてるように情報提供を行い、日々の指導・支援に生かす。
保健部	①健康で安全に学習でき、安心して通える学校	・感染症予防対策や幼児児童生徒の保健に関する情報（ヒヤリハット・事故事例などを含む）を全職員で共有し、学校全体の課題として取り組む。	・コロナウイルス感染症予防対策について、文部科学省や愛知県教育委員会等の通知を踏まえ、本校の実態に応じた「新型コロナウイルス感染症予防対策 ガイドライン」「新型コロナウイルス感染症感染対応マニュアル～感染判明から学校再開まで～」を作成し、全職員が周知できるようにする。また、確かな共通理解を図るツールとして、動画や表を作成し活用する。 ・収集したヒヤリハット事例を会議やグループウェアで積極的に取り上げ、全職員が自分のこととして意識し、安全を心掛けられるようにする。 ・食物アレルギー対応や医療的ケアについての研修内容を充実させ、職員の専門性の向上を図る。併せて幼児児童生徒の個別の緊急時の対応方法についても研修・訓練で取り上げる。
自立活動部	③教職員の能力や専門性を発揮できる学校	・肢体不自由教育に関するさまざまな指導法を学び、職員の自立活動に関する専門性の向上を図る。 ・個に応じた指導目標や内容を選定し、自立活動の指導の充実を図る。	・教材・教具や支援機器について、活用方法等を自立活動室内に具体的に示し、誰もが必要ときに確認して使うことや指導に取り入れることができるように整えていく。 ・基礎的・基本的な内容を中心に、実践的な内容やディスカッション形式を取り入れた自立活動勉強会や自立活動相談を実施する。 ・情報やよりよい指導を行うためのヒントを共有することで、困っていることや不安に思うことについて考えることができるようにし、安全な指導につなげていく。 ・相談内容やアドバイスを指導の参考にしたり、情報交換を行う機会としたりするなど、外部専門機関との連携を積極的に活用する。
教育支援部	④保護者、関係機関等との連携を基盤とした、幼児児童生徒支援を進める学校	・相談活動、支援指導検討会、研修会等で、本校のセンター的機能の役割を果たすとともに、校内外に特別支援教育に関する情報を提供する。 ・学校を中心に地域の縦横関係機関と連携して、「みんなプロジェクト」の活動を進め、校内外に発信する。	・障害のある子どもの理解、相談の事例を紹介したり、支援部便りを閲覧しやすいようにしたりする。校内外に向けての連携、協働を進める。 ・職員、保護者向けに姿勢保持等の小物制作研修会等を計画し、掲示やホームページ等で障害のある子どもの支援に役立つ情報を紹介する。
寮務部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	・生活経験を広げ、主体的に生活する力を身につけられるよう指導・支援を行う。	・家庭や学校と共通理解を図って今後の生活に生かせる目標を個別に設定し、実態を把握してできることを増やすための方法や支援具の工夫をする。 ・毎日の生活や学生会活動・余暇活動の中で、仲間と関わって協力したり、自分で決めたり伝えたりする場面を多く設定する。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		指導・支援をつなげる。(14年間を踏まえた指導・支援の充実、職種間での連携・協力) 主体的な学びを促す授業づくりを推進する。(卒業後に生きる力の育成、個を伸ばす) 教職員の人権意識の向上を図る。(合理的配慮、人権研修の充実) 業務の精選による多忙化改善及び協働できる職員体制の確立(働き方改革、チームでの対応)	

令和元年度 学校評価

(1) 自己評価結果

重点目標			
○指導・支援をつなげる。(指導の継続性の確保)			
○主体的な学びを促す授業づくりを行う。(社会に開かれた教育課程)			
① 健康で安全に学習でき、安心して通える学校			
② 一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校			
③ 教職員の能力や専門性を発揮できる学校			
④ 保護者、関係機関と連携をし、特別支援教育のセンター的役割を果たしている学校			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
幼・小学部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容・方法についての検討・実践・評価・改善により、主体的に活動する力を育む授業づくりを行う。 部・学年の関わりや引き継ぎを積極的に実施し、部間・学年間でつながりのある指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級、学年の活動の中で、友達と関わり合う場面を意識的に設定することによって、がんばったことを認め合ったり、相手の思いを受け止めて行動したりする様子が見られるようになった。 他学年との合同学習を積極的に実施した。緊張しながら司会をする姿や、上級生として堂々と読み聞かせをする様子など、さまざまな関わりが見られた。 前期に行った学習や、社会見学での活動を受けて校外学習を工夫することで、つながりのある学習活動を行うことができた。 部内だけでなく、中学部や高等部生徒との関わる機会や、継続した学習についても検討し、つながりのある指導・支援を行いたい。
中学部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画と個別の指導計画を活用し、学習面・生活面において指導の継続を図ると共に、卒業後の生活を見据えた身に付けたい力の育成を目指す。 一人一人が主体的に活動して目標を達成できる実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳や懇談などを通して保護者との共通理解を深め、具体的目標を設定し、生徒のニーズに応じた指導・支援を行った。 各スタディ会・学年会・部会において、生徒一人一人の健康状態や安全・人権などに関する理解を深めるとともに、職員間の連携や引き継ぎを行った。 教員間で指導方法等の研修(7/22 ケース研修、12/11 ケース発表、研究授業13回)を行い、指導のスキルアップを図った。 学習面と生活面において、できる・分かるという実感や自己肯定感をもてるように、意思伝達や意思決定をする場面を設定するとともに、授業の工夫を行い実践した。 個別の教育支援計画と個別の指導計画を有効活用し、小学部から中学部、中学部から高等部で一貫した指導・支援ができるように、今後も共通理解していく必要がある。
高等部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 中学部や中学校での教育の成果を引き継ぎ、卒業後に向けた実践的な学習を積み重ねることにより、生徒一人一人の主体性を育む。 卒業後の進路先に実践の成果を確実に引き継ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 全てのスタディにおいて自己選択・自己決定を繰り返して主体性を育むと共に、自分の思いを相手に伝える力を育てる実践を行った。 小規模集団による校外学習についてはスタディ毎に生徒の実態に応じたねらいや目的地を定めて実施した。教務部を中心に高等部全体の校外学習計画(未実施分も含め)を集約した。実施にかかわる費用や、時間の取り方等に課題があり、今後に向けて調整が必要である。 ICTを用いた学習について、一部の生徒ではあるが、視線入力や音声入力等のアクセシビリティを含めた学習方法を確立しつつある。 外部講師授業ではハローワークや就労移行支援事業所職員による職業講話や携帯電話事業者によるスマホ安全教室、障害当事者による座談会やポッチャ講習会などを実施した。
訪問教育	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> ゆったりした体と心で過ごせるようにする。 訪問生と通学生、また、訪問生同士の情報を交換し合う機会を設定し、つながりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 手触りや匂いを取り入れた学習内容を計画し、BGMや歌いかけでゆったりと活動することができた。 校内掲示板に通信や作品を展示したり文化祭で授業の様子をビデオで流したりして、訪問生の活動を校内に知らせた。 タブレット端末を用いて、通学生と、あるいは訪問生同士で交流を図ることができた。訪問教育の児童生徒は、友達の声を聞くと目が大きくなるといった変化が見られた。今後も、いろいろな方法で、いろいろな人とのつながりを深めていきたい。
総務部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> 掲示板の安全点検を行うとともに、教育活動に関する掲示の充実を図る。 保護者に本校の教育活動に対するアンケートを実施し、感想、意見等を集約する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の感想、意見、要望を集約した結果を踏まえ、具体的な対応策を、各部会や年度末の保護者懇談で報告する。(2月) 改修工事に伴い、掲示板や各教室カーテン、印刷室、更衣室等の整理管理を行った。そのため、管理がしやすくなり、整理整頓につなげることができた。次年度も改修工事に合わせて引き続きおこなってきたい。 次年度に向けては、担当業務内容について見直しを進め、職員の多忙化解消に努めていきたい。具体的には、行事予定表やいちようだよりの集約の仕方や送付・配布先、掲載内容を精選吟味していきけるとよい。
教務部	③教職員の能力や専門性を発揮できる学校	<ul style="list-style-type: none"> 幼小中高の指導、支援について検討するとともに、指導計画の連続性、つながりのある教育課程、学習環境・支援体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚部から高等部までの全職員を教科別のグループに分け、年間4回教科会を実施した(3月は今後実施予定)。各部、各スタディにおける指導、支援について共通理解を図るとともに、各部で検討されている新学習指導要領に関する話題を取り上げ、つながりのある教育課程の編成に向けて情報を共有することができた。 教材教具の共有やデータの蓄積については、今後も他の分掌と連携して

			進め、効果的かつ合理的な支援が進められるよう態勢を整えていく。
研修部	③教職員の能力や専門性を発揮できる学校	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校の教員として必要な知識、技能の習得、安全に関する訓練等の研修を計画する。 確かな学びを育てる授業づくりを行うための研修・研究等を発展させ、授業力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校研修は、5回計画し、救急法・アレルギー研修・人権研修・進路研修・情報モラル研修を各分掌と連携して実施した。夏季自主研修は、分掌・個人企画合わせて17講座開催し、述べ360人の参加を得ることができた。各講師の創意工夫により、実践的な内容も多く参加者がお互いに学び合う研修を実施することができた。特別支援教育の動向や本校の現状を加味し、教員のニーズにそった研修時間や研修内容となるように検討し、次年度に生かしていきたい。 職員会議の場を借りて、中部地区肢体不自由教育研究大会や全国肢体不自由教育研究協議会（青森大会）の研修報告を行った。全国的な流れや問題点など新しい情報を得ることができ、有意義な時間となった。資料等は回覧したり、データ化したものをサーバーに入れたりし、いつでも閲覧することができるようにした。授業や指導に活用していきけるとよい。
図書部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすい配架整備と図書室利用の啓発を図る。 P T Aや外部ボランティアと連携してさまざまな企画に取り組み、幼児児童生徒の本への興味関心を高める。 バーコード化をすることにより、より使いやすい図書室にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の配架を見直し、五十音順からカテゴリー別にしたが、どのカテゴリーに分けるか迷う本がある。今後本を戻すときに困らないようにカテゴリー別にシールを貼るなど工夫したい。 読書週間では、外部ボランティアが来校し、読み聞かせ会を実施。多くの幼児児童生徒の参加があった。実施後読み聞かせ会で使用した本の貸し出しが増えた。 11月末に生徒指導部と連携して人権週間の展示を行った。人権に関する詩集や絵本などの貸し出しが増えた。新着本コーナーを充実させ、さまざまな本への興味・関心が高まるように働きかけた。バーコード化が完了し、蔵書管理や貸し出し返却作業が容易になった。今後もより使いやすい図書室にしていきたい。
教育情報部	④保護者、関係機関と連携をし、特別支援教育のセンター的役割を果たしている学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページによる情報発信をし、学校理解の推進に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートに「学校ホームページについて」の項目を設けて感想や意見を募った。結果を参考として学校ホームページの内容を再考する。課題は、よりどんな環境でも見やすく、必要とする情報が得られるページを作成することである。それらは日々変化するため、内容の精選や更新は期日を決めて定期的に行う必要がある。
生徒指導部	①健康で安全に学習でき、安心して通える学校	<ul style="list-style-type: none"> 災害に対する最善な対策案を提示し、組織的に訓練を実施していくことで、危機管理意識を高める。 幼児児童生徒の現況の正確な把握、職員間での確実な情報共有に努め、学校全体で体系的な対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種災害を想定した訓練を重ねていったことで判明した新たな課題とともに、今年度各地で起こった災害の状況から、現状により即した防災訓練について、検討していく必要性を感じた。水害などこれまで具体的に想定していなかった防災訓練についても今後取り組んでいきたい。 いじめ不登校対策委員会で各部の事例や心のアンケートの結果について、委員それぞれの視点から意見を出し合い、職員の対応や具体的な対処について検討することができた。職員研修、人権に即した授業の実践で、幼児児童生徒の実情に応じ、適切な指導に取り組むことができた。
進路指導部	②一人一人のニーズに応じた教育を推進している学校	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点から障害や年齢に応じた生活や進路に関する支援を本人の意思を大切にしている。 学校生活から卒業後の生活への移行をスムーズにできるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携を図るために個別支援会議の開催を積極的に促し、円滑な情報交換ができるようにした。福祉施設の職員を講師として招き、障害者の権利擁護への意識を高めるために全校研修（職員）を2回実施した。職業講話で一宮市自立支援協議会の方を招き、中学部、高等部生徒に働くための授業を実施した。卒業後に向けて在学中に取り組むべきことについて、中学部、高等部の生徒が学ぶ機会、保護者への情報提供をすることができた。 卒業生とその保護者を講師に招き、全校保護者を対象に学校生活と社会生活についての講話を実施した。社会生活に向けた学校生活を考える機会になった。 各部懇談で卒業後の生活や課題について紹介し、保護者への啓発を図った。また、卒業生の進路先での様子や社会生活でのさまざまな課題と学校生活を結び付けて将来の生活イメージを職員がもてるように情報提供を行った。
保健部	①健康で安全に学習でき、安心して通える学校	<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒の保健に関する情報（ヒヤリハット・事故事例などを含む）を全職員で共有し、学校全体の課題として取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校研修で食物アレルギー対応と医療的ケアについて取り上げ、本校の現状についての情報を共有と、エビペンの使い方の実習を実施した。医療的ケアについては、夏季休業中に、小児看護実習モデルを使用してより専門的な内容の研修を希望者対象に実施した。来年度も研修部と連携し、よりよい研修を計画していきたい。 医療的ケア委員会や学校保健委員会等で取り上げた情報を部会で報告するとともに、グループウェアを利用して周知し、全職員で情報を共有することができた。
自立活動部	③教職員の能力や専門性を発揮できる学校	<ul style="list-style-type: none"> 肢体不自由教育に関するさまざまな指導法を学び、職員の自立活動に関する専門性の向上を図る。 個に応じた指導内容や方法を選定し、自立活動の指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に配布する外部専門機関との連携についての保護者案内を一目見て分かるものに作成し直して伝えることで、保護者にも職員にもよりよい形で周知することができた。 すべての連携で、設定枠がほぼいっぱいになるほどの希望が出たり、連携先に設定枠を増やしていただいていた実施したものがあったりした。専門家に助言をいただき、指導に生かしていく機会を有効に活用することで、より安全安心な教育につなげることができた。 第1、第2活動室の改修後、室内のレイアウト等を変えとともに、掲示物や支援機器の展示方法などを工夫し、より使いやすい活動室に整えていくことが今後の課題の一つである。

教育支援部	④保護者、関係機関と連携をし、特別支援教育のセンター的役割を果たしている学校	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に特別支援教育研修会を行ったり、蓄積した相談の事例等を活用したりして、校外に本校のセンター的機能の取組や特別支援教育に関する情報の提供をする。 ・学校を中心に地域の繊維関連機関と連携して「みんなプロジェクト」を推進し、校内外に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の研修会では午前午後に分けて4講座を実施した。校外の教員を含め午前3名、午後3名の参加があった。センター的機能による巡回相談活動、支援指導検討会は26件実施した。夏季休業中の個別の相談会は8件実施した。肢体に不自由のある子どもの相談が半数だった。 ・「みんなプロジェクト」では、地域の繊維関連機関と連携し、肢体に不自由のある子どものブラウス・パンツの制作を進めた。姿勢保持や生活に役立つ小物の職員向け研修会の実施、PTAの小物制作講習会への支援が行えた。学校ホームページや地域の文化祭等でその取組を紹介した
寮務部	①健康で安全に学習でき、安心して通える学校	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態を的確に把握し、安心して気持ちよく生活できる環境作り努める。 ・実効性のある各種訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭からの情報も含めて健康状態を把握し、職員間で共有して体調に合わせた指導を行えた。 ・修繕・修理・購入により舎室内を整備し、生活環境をよくすることができた。 ・新しい想定を加えて各種訓練を行い、その都度問題点を改善した。非常時の対応について一人一人が考えることができ、防災・防犯・緊急時への意識向上につながった。今後、舎生がより主体的に動けるような指導を充実できるとよい。
総合評価		<p>「指導・支援をつなげる」「主体的な学びを促す授業づくり」を重点目標に掲げ、①から④の目標を定めて取り組んだ。①については、全国で自然災害による被害が増えていることから水害を含めた避難訓練の再検討を始めた。また、アレルギーや医療的ケアの職員研修を通し、職員の安全への意識が向上した。②については、実態に合わせた適切な指導や工夫によって、自己選択など一人一人の主体性を育む教育をさらに推進できた。施設設備面でもトイレや教室の改修などにより児童生徒の自立を促す環境が整ってきた。③については、教科会や職員研修を定期的に行い、新学習指導要領やつながりのある教育課程の編成に向けて情報共有をすることができた。さらに外部専門家と積極的に連携し、授業の質の向上を図ることができた。④については校内外に向けて相談や指導助言を行いセンター的な役割を果たすことができた。学校HPによる情報発信についてはさらに工夫を加え、地域を含めた学校理解につなげていきたい。</p>	

(2) 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<p>指導・支援をつなげる。(14年間を踏まえた指導・支援の充実、職種間での連携・協力) 主体的な学びを促す授業づくりを行う。(卒業後に生きる力の育成、個を伸ばす) 教職員の人権意識の向上を図る。(合理的配慮、人権研修の充実) 業務の精選による多忙化改善及び協働できる職員体制の確立(ストレスチェック結果の活用、メンタルヘルスの充実)</p>
自己評価結果について	<p>4月初旬に全職員で人権教育について取り組んだ結果、職員の人権意識の向上が見られた。また、近隣の一宮北高等学校体育館での運動会が初めて開催でき、合理的配慮に基づいた行事が実施できた。在校時間調査やストレスチェック結果を活用し、書類の精選、電話を受ける時間の設定等、業務改善を図った。</p>
今後の改善方策について	<p>14年間をとおした指導・支援のさらなる充実とともに、特に部間での学びの連続性の確保を図る。また、教職員一人一人が人権意識や危機管理意識をさらに高め、肢体不自由教育の専門性向上に努める。</p>
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設では、名前の呼び方で利用者が戸惑うことが多い。学校での呼称と卒業後の呼称が異なることが原因。高等部では移行の時期と捉え、フルネームで呼ぶなどの取組も良いかと思う。 ・各部の授業の見学では、職員が楽しく笑顔で授業を行い、子どもたちが元気に発言をしていた。熱心に児童生徒に対応されていると感じた。 ・さらに肢体不自由教育の専門性を高めて、幼児児童生徒の指導にあたってほしいと思う。 ・改修工事で校内が明るくなり、子どもたちの指導によい影響を与えている。 ・インフルエンザやノロウイルスなど、感染症対策(手洗い・うがい)をしっかり行ってほしい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・構成…学校関係者評価委員(学校評議員)5名 医療関係者、学識経験者、進路関係者、保護者代表、地域住民代表 ・評価時期…令和元年度は、6月に第1回をアンケートという形で実施し、第2回目を2月に実施した。